

# 解放への一歩

〈筑紫野市人権尊重のまちづくりスローガン〉

自分が人からされたり 言われたりしていやなことは  
自分は 人にしない 言わない

第47集



筑紫野市

写真：天拝公園（池上池と水上ステージ）



識字で学ぶ あるばあちゃんは言った

「最近は何コモジが多くてわからん」と

最近カタカナ語が多くなった

四六時中 テレビからあふれ出す

パンデミック ロックダウン クラスタ

トーキョーアラート オーバーシュート

ディスタンス ヘイトクライム

食べ物の名前か 何かのスポーツなのか

はたまた「すういーつ」とかいものか

日本語はどこに行ったやら

学校の国語で、いやいや、英語で教えているのでしょいか

ばあちゃんは言う

「ヨコモジ」の方が みんなわかるんでしょね

学校にいけなかった わたしには 何が何やらさっぱりわからん

でもね 手洗い うがいにはマスクは ちゃんとしとるよ

コロナ禍の困難な時代と社会

過去 貧国と差別によって 教育・情報から

取り残された人たちは また、同じ憂き目をみる

未知なるが故の不安と恐怖が

またぞろ差別を生むという人間の弱さも露呈させた

わたしたちは いつまで この過ちを繰り返すのだろう

今 こんな時期だからこそ

一人ひとりを大切にすると同和教育の出番だ

「人は教育によって 真に強くて優しい人となる」

ばあちゃんは言う

「差別されて悲しかったから 子どもたちには同じ思いを

させたくはない」と

パンデミック (世界的流行)  
ロックダウン (都市封鎖)  
クラスター (感染者集団)  
トーキョーアラート (東京警報)  
オーバーシュート (爆発的急増)  
ディスタンス (距離・間隔)  
ヘイトクライム (憎悪犯罪)





## 道の真ん中を歩いてもいいかも

### おばあちゃんのつづり

「こんばんは、識字学級です。」  
私は月に二度、学級生のお宅を訪問しています。訪問のたびに、「識字通信（プリント教材）」を渡しています。識字通信には、社会状況や人権尊重の呼びかけ、健康な体づくり、文字の練習などが載せられています。その通信をもとに話をしたり、文字の練習をしたりしています。

私は、識字学級の中で陽子おばあさん（仮名）に出会いました。陽子さんは、お話上手な明るい人です。ある時、陽子さんは紙のつづりを出してきました。「私、通信の文字の練習は、毎回書いているのよ。」と大事そうにつづりを開いて、見せてくれました。つづりは今までの識字通信をきれいにとじ合わせたものでした。そこには、文字の練習のお手本の横に陽子さんが書いたプリントもありました。読ませてもらうと、点や丸（句読点）まできちんと書かれています。字を見ると、一文字一文字丁寧に書かれていることがよくわかります。とめ・はねもしっかりと意識されていて、消しゴムで何回も消した跡もあり

ります。文字を本当に大切にしようとする気持ちが伝わってきました。

一緒に訪問している小学校の先生が「お上手ですね。今でも練習をしているのですね。」と声をかけていました。陽子さんは嬉しそうに、「ありがとうございます。上手ではないけれど。この年になると、書かんと忘れてしまうよ。文字の練習が届くと、忘れんごと、練習しているとよ。」と楽しそうに笑顔で答えてくれました。

続けて先生が陽子さんに尋ねました。「文字の練習をしてこられて、どうでした？読めるようになって、書けるようになって、何か変わりました？」

少し間があつて、陽子さんはゆっくり語りだしてくれました。

「文字の練習をする前は、生きることに関心一杯だったから学校にもあまり行けんで、引け目を感じてたね。これまで書いてきて、読み書きできるようになってからは、今までできないと思ってきたことをしてみようかなと思えるようになったよ。そうね、自信がなくて縮こまって、道の端を歩いている気持ちから、もっと自信を持って胸を張って、『道の真ん中を歩いてもいいかも』と、思えるようになったよ。」  
文字を少しずつ獲得し、社会の様子がもっとわか

るようになった、いろいろな人々と楽しく話すことができるようになった喜びやその自信、さらにはその努力の積み重ねが、陽子さんが一枚一枚大事にしているつづりなんだと実感しました。

### 識字って？

私が通っている識字学級では、文字を大切にします。

部落差別による貧困やいじめから学校に行けず、文字を学べなかった人たちがいます。文字を読み書きできるようにになりたい思いから文字を学ぶ運動が広がり、ひらがなやカタカナを覚えることから始まったのが識字学級です。

文字を取り戻すことで、社会の動きに気づくようになります。いろいろな仕事につく機会が増えます。社会を見つめ、自分の思いを伝えることができるようになります。文字を学ぶことは、差別を見抜く力になり、差別に立ち向かっていく力になるのです。

### 識字から学び

識字に学び、陽子さんから文字を奪ったものは何なのか。文字を取り戻していくとはどういうことなのか。少しわかったような気がします。

「文字をおばえて、はじめて夕焼けがうつくしい」と感じたという、同じく識字に学ぶ高齢者の文章を見たことがあります。貧しさや差別によって学校に行くことができなかったこの高齢者の言葉は衝撃的でした。部落差別は、当然保障されなければならぬ教育を遠ざけただけでなく、「美しいものを美しい」と感じる感性までも奪っていたのです。これを取り戻していったのが識字運動だと思います。

鉛筆が折れるくらい一文字一文字に力をこめ書き上げた高齢者が、「鉛筆が重たかー。」と言いながら見せてくれる笑顔の裏にあるものを見失ってはならないと思います。

「道の真ん中を歩いていいかも」と語ってくれた陽子さんは、今日も識字プリントを前に鉛筆を握っています。





## 出会えてよかった

### 兄が連れてきた女性

私が中学生だったある日、当時、就職一年目の兄がある女性を家に連れてきました。兄はその女性と結婚したいと思っていたのです。しかし、両親は結婚どころか会うことすら拒否したのです。何も言わずにうつむいているその女性の姿は、とても悲しそうに見えました。

それから一年ほどたった頃、その女性が兄の結婚相手の英子さん（仮名）だと紹介されました。英子さんはうれしそうに「よろしくね。」と言ってくれたので、私も照れながら「よろしくお願ひします。」と言いました。

### どうして結婚に反対したの？

それから何年も過ぎ、私は大人になりました。その頃には、なんとなく英子さんが「部落」と呼ばれる地区の出身であることを知っていました。生まれた地区やルーツを理由にした差別があること、それを部落差別と呼ぶことを学んでいた私はある日、母に兄の結婚に反対した理由を聞きました。

母の答えはこうでした。

「お兄ちゃんが入社したてで、結婚なんて早いってお父さんと話してたの。…でも、ほんとには英子さんの出身のことにこだわってたんだと思う。そんなことで反対したらいけないんじゃないかとも思ってたんだけど…」

### 「兄の幸せ」より「どう見られるか」が大切？

続けて、母はこんな話をしました。

「お母さんが小さい頃、川の向こうに行かないように言われてたの。今思えば、そこが「部落」と呼ばれる地区だったのかも。でも、そこに行つてはいけない理由を誰も知らなかった。なんとなく、その地区やそこに住んでいる人を避けてたの。だから、英子さんはいい人でも、周りの人にどう見られるかとか、あなたの結婚に悪い影響があるんじゃないかとか心配したのよ。」

だから、そんなに一緒にになりたいなら、二人だけで好きなおところに行つて結婚でも何でもしなさいって言ったの。そしたらお兄ちゃんたちは、自分たちは悪いことは何もしていないって、自分たちのことをわかつてほしいって何度も何度も言うの。」

### 兄が気づいたこと

ある日、兄はそんな両親に、こんな話をしたそうです。

「俺、英子に出会うまで、部落差別に苦しんでいる人がいるってことに気づかなかつたんだ。英子や英子の家族に会ったとき、何も知らない俺を受け入れてくれてるっていうあたたかさと、世の中の偏見や差別に向き合つて生きている強さを感じたんだ。こんな生き方をしている人たちに出会つたのは初めてだったよ。でも、そんな「両親に育てられた英子も、父さん、母さんが俺らの話を聞くこともしないのを見て、泣きながら俺に言ったんだよ。『自分が部落の出身じゃなかったら、あなたにこんな思いをさせなくてよかったのに』ってさ。」

どこで、誰から生まれるかは誰にも選べないだろ。それを理由にした差別があることがおかしいんだよ。昔そうしてたからって、理由もないのに避けたり結婚に反対したりするのは差別だし、そんな生き方は、いろんな人の心を傷つけ続けるんだ。」

### 二人が教えてくれたこと

「私たちは英子さんっていう人ではなく、『〇〇に

住んでいる人』っていうくくりで人を見てたのよね。あのままだったら、間違つた考えのまま、平気で人を差別する人間として一生を過ごしたと思う。」「お父さんも天国で同じこと思ってるかな？」

「そうね。あの時、お父さんが二人の結婚についてもう一度考えようって言うってくれなかつたら、一歩が踏み出せなかつたかもしれない。何より、お兄ちゃんたちの結婚の話がなかつたら、差別することのおかしさとか、人としての生き方を考えることがなかつたと思う。」

人を生まれた所や住んでいる所で避けたり、傷ついたりする人生が幸せな人生とは思えません。思い込みや偏見にとられることなく、お互いありのままの姿と向き合いながら、つながりをつくっていく、そういう人生を送ることの大切さを、仲睦まじく暮らしている兄と英子さんが教えてくれたんだと思います。





## 梅子ばあちゃん

私と梅子ばあちゃん（仮名）との出会いは、先生になって初めての夏のことでした。梅子ばあちゃんは、地域の児童館でいつも子どもたちや私たち教師に優しく声をかけてくれる館長さんです。



先生になって四か月、その頃の私は、授業もうまくできず、学級の子どもたちはケンカが絶えず、あせってばかりでした。そんな時に、梅子ばあちゃんが、児童館で私に声をかけてくれたのです。

「先生、少しは、慣れたかね。ちよっと、きついつちやないね。笑顔よ、笑顔が一番。」

子どもの、よかとこ見よるね。

どん子も、よかとこ ippbaiあるとよ。

先生にもよかとこいppbaiあるよ、元氣いppbaiで、よう動きよる。

あせつたらいかん。ゆっくり先生になればよかと。よかとこ見つけて、ニコニコしんしゃい。」

私は、その言葉にハッとしました。梅子ばあちゃんが言われるように、子どものいいところを見つめようとしていなかったことに気づいたのです。子どものいいところを見つめるより、自分が思うような授業をしたい、自分の言うことを聞く子どもたちであってほしいと考えていたのです。

### つけてほしい力

二期になり、梅子ばあちゃんの一言から、子どもたちのいいところを見つめるように努力しました。そうすると、笑顔が増え、学級もまとまってきました。

しかし、授業は相変わらずうまくいかずに、学力をつけるにはどうしたらいいのかわかりませんでした。それに、授業がうまくいかないのは、親がきちんとしつけることをしていないから、家庭学習の習慣がついていないからなど、家庭に責任があると考えていました。

その年の冬、梅子ばあちゃんとなかなか勉強についていけない子どもの話をしている時でした。

「先生は、学力、学力言っね。」

先生が言いよるとは、どんな学力ね？

テストの点数だけで子どもをみよらんね。

テストの点数も大事。

でもね。私は、子どもたちみんなに、自分の気持ちを伝える力をつけてほしいと。」

「おかしいことは、おかしい。くやしいことは、くやしいという力。」

手を出したり、足を出したりせずに、言葉や文章で伝える力をつけてほしいとよ。」

梅子ばあちゃんは、優しい言い方でしたが、目には涙を浮かべ、唇は震えていました。

私は、それまで、テストで点数をとれることが学力だと思い、点数がとれる子をよい子とっていました。

梅子ばあちゃんの「点数だけではなく、自分の思いや考えを伝える力をつけてほしい。」という言葉は、子どもや人の見方について見直すきっかけになりました。

### すべての子どもたちに

梅子ばあちゃんは、子どもの頃からとても苦勞された方でした。弟や妹の面倒を見ながら、母親の仕事を手伝っていたので、学校にはほとんど行くことができませんでした。たまに学校に行っても、被差別地区の出身というだけで差別され、勉強などでき

なかったのです。おとなになつてからは、日雇いの肉体労働で家庭を支え、たくましく生きてこられました。その中で、差別のおかしさに気づき、仲間とともに部落解放運動を立ち上げ、差別のおかしさを伝えてこられました。そして、自分らしく生きるために、識字学級で差別によって奪われた文字を取り戻してきたのです。

教育の大切さをだれよりもわかっているからこそ、「伝える力を」と言われたのです。それも、被差別地区の子だけでなく、教室にいるすべての子ども「みんなに」つけてほしいと言われたのです。

梅子ばあちゃんは、誰に対しても自分の生い立ちや差別された体験を、言葉を選びながら、優しく丁寧に話されます。それは、差別をなくすために一緒に活動し、だれもが胸をはって堂々と生きていける社会をつくりましようというメッセージです。

私も、決めつけや偏った見方をしている自分に気づき、それが差別につながっていることを知りました。

この出会いを忘れずに、自分自身を見つめ、差別をなくすために身近で小さなことから積み上げていきたいと思えます。



## 医学の発展に貢献した人々

私は、小学校の頃から歴史が大好きな51歳です。先日、今の小学校の社会の教科書を目にする機会があり、内容が大きく変わっていることに気づきました。



### 新しい江戸時代のみかた

僕は江戸時代の身分制度は、「士農工商」と身分に序列があるように習いました。しかし、今の教科書では次のように書いてあります。

江戸幕府のもとでは、武士が世の中を支配する身分とされ、名字を名のり、刀を差すなどの特権を認められました。百姓や町人は、武士の暮らしを支える身分とされました。それぞれの身分の中でも上下関係が細かく分かれていました。(中略)

さらに、町人や百姓と区別され、差別された人々もいました。これらの人々は、住む場所や服装、他の身分の人々との交際などを制限されました。

しかし、厳しい差別を受けながらも、荒地を耕して年貢を納めたり、すぐれた技術を使って人々の

ました。

みなさんはこのように習ったと思います。私もそうでした。歴史の研究が進んだ今の教科書では、さらに詳しく書かれているのです。

### 解剖の見学(想像図)



このとき、すぐれた技術や知識を生かして解剖を行い、人体の説明をしたのは、当時、百姓や町人とは区別され、厳しい差別を受けていた人でした。

### 医師 杉田玄白の驚き

昔は、医学といえば漢方薬による治療が一般的で、医者であっても人体の知識はあまり持っていませんでした。医者であった杉田玄白は、オランダ語で書かれた医学書を手に入れ、人体の解剖(腑分け)を見学しました。玄白らは、オランダ語で書かれた医学書と人体の構図が同じであることを知り、その正

生活に必要な用具をつくったり、役人のもとで治安をにったりして、社会を支えました。また、古くから伝わる芸能をさかんにして、後の文化にも大きな影響をあたえました。

このように、江戸時代は武士が世の中を支配する身分とされ、商人と百姓は支える身分だったとされています。

さらに、町人や百姓と区別され、差別された人々については、「悲惨」で「貧しい」姿だけでなく、厳しい差別を受けながらも、社会を支えた姿を学ぶことができるようになっていきます。

教科書の記述が変わったのは、「身分制度」についてだけではありません。

### 「解体新書」

みなさんは杉田玄白という名前を聞いて何を思い出しますか？

江戸時代に、オランダ語で書かれた人体解剖書「ターヘルアナトミア」を手に入れ、日本語に訳し「解体新書」という医学書を書きました。解体新書は、「日本最初の西洋医学の翻訳書」と言われています。当時はオランダ語の辞書もなく、翻訳は大変な仕事でしたが、玄白たちは3年半ほどもかかって完成させ

確かに驚きました。

この腑分けの時、優れた知識や技術を生かして解剖を行い、これは心臓・これが肝臓・胆のう・これが胃と臓器の説明をしたのは、百姓や町人と区別され、厳しい差別を受けていた名もなき人でした。当時、貧しく、劣っていると思わされていた被差別身分の人が解剖の技術や知識をもっていたことも、玄白たちをさらに驚かせたのです。

解体新書の完成以降、日本の医学が発展していきます。腑分けを行った人の言葉に耳を傾け、偏見を乗り越えて真実の探求に力をつくした杉田玄白だけでなく、見事な解剖術と知識をもった人々の存在が、近代日本の医学の発展を支えたのです。

このように、差別をうけてきた人々が、知識と技術を持ち、医学や文化の発展に貢献したことを学ぶことで、真実の歴史が見えてくるのではないのでしょうか。

新たな事実を知り、これまでの考えの間違いに気づきませす。これも、歴史を学ぶ楽しさだと思います。





## 聡太へ〜おじいさんから孫への手紙〜

聡ちゃんへ

まだ、小さなあなたに理解できないかもしれないとは思いますが、どうしても、この事実とそこに生きる人たちのことを伝えたいと思います、手紙を書きました。今、わからなくてもいい。5年後、10年後でもいい、何度も読み返してもらいたいのです。

決してあってはならないことですが、今でも生まれたところや住んでいる場所で差別されている人たちがいます。その人たちの命をおびやかす、心を傷つける差別落書きがありました。

その落書きを見た中には、あなたと同じくらいの子どももいました。

その子たちの瞳はみるみるうちにくもっていき、ポロポロと涙をこぼし、その背中はどんどん丸く小さく縮こまっていくように見えました。親たちの目にも涙とともに深い悲しみの色がにじんできていました。親たちの手は、ふるえながらもわが子の肩に手をかけたり、さすってあげたり、抱きしめてあげたりしていました。この目の前の親子を、そして、その地域の人たちを悲しみのどん底に突き落とす差別

「てやる。」と、わたしたち大人に訴えかけているようでした。でもね、落書きは消えても悲しみやくやしきはなくなっていなかったんでしょね。また、涙がこぼれていました。(おじいちゃんも)

わたしたち大人の力が足りなくて、残念ながら差別やいじめがない世の中ではありません。でも、多くの人は、決してあきらめたり投げ出したりしません。差別をなくすことがどんなにすばらしいことか、人を大切にすることがどれほどすてきなことか。何年か後にでも「おじいちゃん、カッコいい。」って、聡ちゃんに言ってもらえるようにね…。

12月10日 春夫おじいちゃんより

### 春夫おじいさんの想いを

春夫さん(仮名)は、昨年11月に行われた差別落書きを消す学習会、12月の消す作業にも参加しました。

春夫さんはその中で、これまでの自分をもう一度見つめなおし、「壁の落書きは消されたが、心の中の落書きは、決して消えてはいない。」「こんな差別は、絶対に許さない。」「この思いを絶対に伝えなければいけないと考えました。そして、まず孫の聡太

落書きが心から憎いと

思いました。なぜなら、

あの親子が、わたしの愛する娘であり孫の聡ちゃんだとしたらと思うと、胸が引きちぎられそうになったからです。

この差別落書きは、すぐには消しませんでした。それは、差別をなくすために多くの人に知ってもらいたかったからです。

その地域の親と子は泣いてばかりではありませんでした。このひどい差別落書きへの怒りや悲しみ、人を本当に大切にすることとはどんなことかを多くの人たちに訴えていきました。こんなにもすごい親と子どもたちの近くにいると、わたしも勇気や元気が出てくるんです。

つい先日、この親子たちによって黒マジックで書きなぐられた差別落書きは消されました。その姿も、わたしはそばで見えていました。自分たちを差別する言葉をキツとにらみつけた後、力をこめて消す姿は、「こんな差別に負けるものか。絶対に差別をなくし



さんへ、差別落書きをされた人たちの思いや自分の気持ちを伝え、共に人を大切にできる人になって欲しいと自分の願いを託しています。まだ、小さい孫の聡太さんが春夫さんの手紙を理解できたかどうかはわかりません。しかし、おじいちゃんの人を想う豊かな心は、しっかり伝わったと思います。

とてもすてきなおじいちゃんです。

### 資料(差別落書きが消されるまで)

2019年		2018年		
12月	11月	9月	4月	2月
親子が集まって、落書きが消される。	落書きを消すにあたっての親子学習会が行われる。	市の公共施設に「死ぬ」 <sup>*</sup> 「エタ、ヒニン」と書かれた部差別落書きが発見される。 市や各学校などにおいて研修会が開かれる。 ※研修は、2019年まで市外を含めて各所で行われる。	地元で行われる子どもまつりで、子どもたちや保護者が差別落書きのおかしさを訴える。	

\*エタ・ヒニンという言葉は、江戸時代の身分制社会の中で、差別されていた人たちに対し使われた差別語です。これらの言葉は、1871年、明治政府によって廃止する通達が出され現在に至っています。今回は啓発のため、あえて使用しています。



## それには理由があります

2020（令和2）年3月31日、筑紫野市で

### 「筑紫野市部落差別の解消の推進に関する条例」

が施行されました。それには、次のような理由があるのです。

#### その一、「部落差別が今もあります」

悲しいかな本市においても2018（平成30）年に発覚した公共施設への差別落書きをはじめ、インターネット上の差別書き込みなど、多くの市民の努力にもかかわらず、身近で現実的な問題として差別が存在しているからです。



#### その二、「市としての強い決意」

本年3月開催の筑紫野市議会にて全議員の賛成によって本条例は可決されました。筑紫野市としての部落問題解決への強い決意を示したものです。それは、許されざる社会悪である「部落差別」を多くの市民のみなさんと協働してなくしていく「人権尊重のまちへ」の希望でもあるからです。

#### その三、「筑紫野市からの発信」

県はすでに、部落差別解消推進のための条例を制定していますが、筑紫野市の実情にあった取り組みは、国や県の指示を待つのではなく、筑紫野市が責任と主体性をもって発信していくべきものと考えているからです。

#### その四、「教育と啓発が重点」

筑紫野市教育施策の中心に据えられている人権・同和教育は、市民の理性と良心を育んできたと思います。本条例は、改めて部落問題解決のための教育と啓発が果たす役割を重点化しています。すべての市民が学びつつ行動することによって、一人ひとりが大切にされる地域を実現したいと考えているからです。



## 筑紫野市部落差別の解消の推進に関する条例

### <条例のポイント>

- 第1条 目的**  
部落差別のない社会を実現します。
- 第2条 基本理念**  
市民一人一人の理解を深めるよう努めます。
- 第3条 市の責務**  
地域の実情に応じた施策を講じます。
- 第4条 相談体制の充実**  
部落差別に関する相談体制を充実させます。
- 第5条 教育及び啓発**  
地域の実情に応じ、必要な教育及び啓発を行います。
- 第6条 部落差別の実態に係る調査**  
施策の実施のため、必要に応じ実態調査を行います。



上のQRコードで  
市条例の全文を見  
ることができます。



# 解放への一步 (第47集) アンケート用紙

(当てはまるものに○をつけて下さい。)

## ①解放への一步 第47集の内容は…

- よかった
- まあよかった
- あまりよくなかった
- よくなかった

## ②心に残った内容は…(複数回答可)

- 巻頭詩
- 「道の真ん中を歩いてもいいかも」
- 「出会えてよかった」
- 「梅子ばあちゃん」
- 「医学の発展に貢献した人々」
- 「聡太へ～おじいさんから孫への手紙～」
- 「それには理由があります」

## ③感想をお聞かせ下さい。


## 解放への一步 (第47集) アンケートのお願い

筑紫野市では、同和問題をはじめ様々な人権問題の解決を図るため、人権尊重のまちづくりを推進しています。その一環として本年度も「解放への一步」第47集を発行いたしました。つきましては、市民の皆様から読まれた感想等をいただき、今後、さらなる充実に役立てたいと考えています。趣旨をご理解のうえご協力のほどよろしくお願いいたします。

### <アンケート回答の方法>

- ①FAX: 上のアンケート用紙に記入のうえ以下の番号にFAX下さい。  
→ FAX番号: (092)923-9644 筑紫野市役所教育政策課 宛
- ②郵 送: 上のアンケート用紙に記入のうえ以下の住所にご送付下さい。  
→ 〒818-8686 筑紫野市石崎1丁目1番1号 筑紫野市役所教育政策課 行
- ③メール: jinkendouwa@city.chikushino.fukuoka.jp
- ④市ホームページのアンケートページ [筑紫野市 解放への一步 検索](#)



QRコードを携帯電話・スマートフォン等で読み取るとアンケートページにつながります。



■編集発行  
筑紫野市  
筑紫野市教育委員会  
筑紫野市同和教育研究会  
筑紫野市同和问题啓発資料編集委員会

## 解放への一步 第47集

2020年10月15日発行

■問い合わせ先  
筑紫野市教育委員会教育政策課  
☎ (092)923-1111 (内線 714、715)

■印刷  
株式会社 コーユービジネス